



## 企業における IT セキュリティ対策とこれからの ID 管理

### IT Security Measures in Enterprises and Future ID-Management

#### 1. セキュリティ対策見直しの背景

新型コロナウイルス禍の影響でテレワークが急速に普及し、クラウドサービスを活用する企業が増加しています。一方、クラウドサービスの利用にはさまざまなセキュリティリスクが伴い、その対策を考える上で重要となるのが、ID 管理を軸としたゼロトラストの概念です。近年、パスワード管理の不備、パスワードリスト攻撃などによる不正アクセスは大きな脅威となっており、「全てを信用しない」「都度の確認を実施する」というゼロトラストの考えに基づく対策が求められる中、これまでの ID 管理の運用を見直す必要が出てきています。

#### 2. クラウド ID 管理サービス Keyspider®

(株)アクシオは 2021 年より国内販売総代理店として、ID 管理に関する各種機能を搭載したクラウド ID 管理サービスの Keyspider® (キースパイダー) を提供しています。連携システムは、クラウドサービスだけでなく、オンプレミスの社内システムも含め、企業が保有する全てのシステムに ID 連携することが可能です。サービスの企画・開発は日本国内で行われており、日本企業で求められる多くの要件に対応しています。特に多様化・複雑化してしまった ID 管理をシンプルに運用するものとして、当社が 20 年間培ってきた 150 社以上の ID 管理システム構築のノウハウを注入し、国内企業で多く求められる機能を実装しています。

#### 3. 日本ならではの、求められる機能

ID 管理システムの再考に際し、日本の組織構造に適したクラウド ID 管理の仕組みを取り入れることは非常に重要です。組織や職制に応じて権限を柔軟に設定でき、各企業ルールに基づき、自動的に権限を付与できる「自動権限付与機能」を活用できることは Keyspider® の大きな特長です。また昨今では、企業内でのセキュリティ監査で求められるアクセス管理の証跡も重要視され、データを出力できる「ID 棚卸し機能」へのニーズにも注目が集まっています。一時的に作成した ID が残っていると、監査において指摘の対象になります。さらに、それぞれのシステムから探し出すのは大変な作業になります。Keyspider® では、長期間

更新されていないアカウントや、有効期限を過ぎていてもシステム利用ができるアカウント、契約社員や外注業者の業務のために作成されたアカウントなどをリスト化することが可能です。監査のための対応として Keyspider® の操作のみで完結する部分は、利用者に喜ばれる機能の一つです。

また、「プロビジョニング機能」と呼ばれるクラウドサービスに ID 情報を同期する機能も特長的です。Keyspider® では、日本国内でよく使われているクラウドサービスと API<sup>\*1</sup> 経由で直接連携できるほか、API を持たないレガシーシステムなどに関しては、Keyspider® が実装している RPA<sup>\*2</sup> 技術によって連携の自動化をすることが可能となっています。

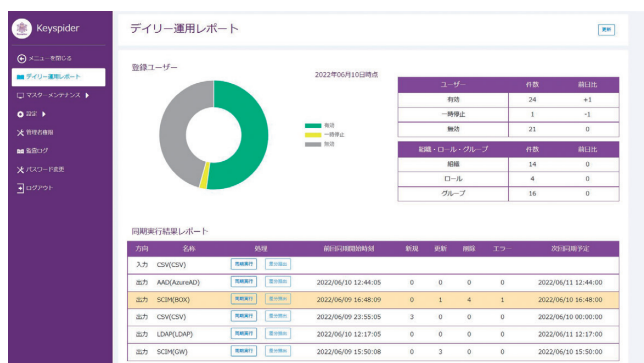


図1 Keyspider® 画面例 (デイリー運用レポート)

Keyspider® は、ユーザーのニーズに応える形で新たな連携先や機能の検討を進めています。今後は組織内におけるセキュリティの基盤として、社内で導入するあらゆるセキュリティソリューションが Keyspider® のコントロールする ID 情報 / アクセス権限情報を經由し、さまざまなシステムと連携し、IT の利便性とセキュリティが両立する世界を目指していきます。

\*1 Application Programming Interface の略語で、ソフトウェアの一部機能を共有する仕組み

\*2 Robotic Process Automation の略語で、ソフトウェアロボットが、定型作業を自動化、代行するツール

問合せ先: 〒141-0031 東京都品川区西五反田2-12-19  
五反田NNビル 5F

(株)アクシオ 企画室

電話(03)3491-0940 FAX(03)3491-0943